

子どもたちの安全を守るために。

― 交通安全対策に取り組んでいます ―

家族と、園と、
地域でつなぐ安全の輪

与謝野町交通安全対策委員会（以下、委員会）では、年間を通じて「小学校での自転車教室」や町内行事における交通安全など、地域の安全を守るためのさまざまな活動を行っています。その中でも、



かえでこども園の親子交通教室

最も力を注いでいるのが「幼児（就学前の子ども）の交通安全教育」です。

小さな子どもたちが交通事故に合わないためには、幼いころから交通安全への意識を育むことが欠かせません。そこで委員会では、町内のこども園や保護者会の皆さんと連携し、年間3回の「親子交通教室」を開催しています。

しかし、子どもたちが正しいルールを身に付けるためには、ご家庭での日常的な繰り返しですが何よ

りも大切です。ぜひ、交通教室で学んだことをご家庭でも話題にしてみてください、散歩やお出かけの際には『とみき（とまる・みる・きく）の約束』を実践する中で交通安全への意識を育んでいただきますよう、保護者の皆さんのご協力をお願いいたします。

子どもたちの安全は、地域の安心につながります。今後も委員会は、警察やご家庭、地域の皆さんと手を携え、子どもたちが安全に暮らせるまちづくりを進めてまいります。

見直そう、 幼児の自転車ルール

与謝野町では、幼児の安全を守るため、公道での自転車利用を禁止しています。幼児による公道での自転車走行は大変危険ですので、絶対におやめください。また、車が出



のだがわ第2こども園の親子交通教室

入りする「駐車場」や、ほかの自転車が行き交う「自転車道路」での利用も禁止しています。

自転車に乗る際は、必ず保護者の見守りのもと、「公園」や「広場」などの安全な場所を利用してください。また、万が一の転倒から大切な頭を守るため、ヘルメットを着用するとともに、交通ルールを守り、安全に十分配慮してご利用いただきますよう、ご理解とご協力をお願いします。

交通安全対策委員会 委員の紹介

※ ◎は支部長
※ 敬称略

【会長】安田 善一
【副会長】糸井 邦彦

【加悦支部】

◎ 小西 敏典
中谷 義徳、明石 延子
朝倉 敏秋、森垣 佳代
大谷 直行、杉本 明
堀場 益夫

【岩滝支部】

◎ 細見 泰道
小山 富美代、後藤 仁
植田 智子

【野田川支部】

◎ 山添 一廣
上田 繁範、稲葉 八重子
山本 哲也、戸田 幸弘
渡辺 孝子、小西 弥須子
福村 和彦、長島 仁
糸井 ふみ代、水島 照仁
宮 絹子、吉田 真人
多田 修

住み慣れた地域で
安心して暮らしていけるように

認知症 コラム

【第16弾】
認知症おたずねコーナー
～ Part 1 ～

身近な疑問や 困りごとにお 答えします

こんにちは、認知症地域支援推進員です。皆さん、認知症の方と接する中で「どう対応したらいいの?」「こんなときはどうしたらいいの?」と悩まれることはありませんか。この『認知症おたずねコーナー』では、認知症に関する身近な疑問や困りごとを質疑応答形式で分かりやすく紹介します。



認知症を正しく知ることは、ご本人やご家族だけでなく、認知症の方にかかわる皆さんの安心につながります。日々のかかわりのヒントとして、ぜひご覧ください。

Q 認知症の母から、同じ質問を何度も繰り返されます。最初は優しく答えていても、何度も続くとイライラしてしまい、「さっきも言ったでしょ!」と強く言ってしまうんです。こんな私は、介護に向いていないのでしょうか。

A. 自分を責めないで

そんなことはありません。同じ質問に何度も答えることは、想像以上に大変なことです。実際に介護をしている多くの方が、同じような悩みを抱えておられます。

認知症の方は、聞いた内容を記憶しておくことが難しくなるため、ご本人にとって毎回「初めての質問」です。例えば、「今日は何曜日?」「病院はいつ行くの?」と、何度も尋ねられることがあります。介護する側は「また同じことを聞いている」と感じますが、ご本人は不安な気持ちから確認している場合も少なくありません。

そんなときは、質問に答えるだけではなく、「病院のことが気になっているんだね」と寄り添う言葉を添えてみましょう。また、予定を書いたメモやカレンダーと一緒に確認することも安心感につながります。

今回のポイント

同じ質問を繰り返す背景には、「忘れていた」だけでなく、「不安な気持ち」が隠れていることがあります。言葉の裏にある思いに目を向けてみましょう。

むすびのボエム

完璧じゃなくてもいい。笑顔の日も、ため息の日も、すべての大切な介護の時間。あなたの優しさは、ちゃんと届いています。